

参考資料

公共施設のあり方に関する市民アンケート結果

1 アンケート調査の概要

豊橋市公共施設等総合管理計画の策定や今後の施設のあり方について検討を行う際の参考とするため、市民アンケートを実施しました。

調査期間	2024(令和6)年12月16日～2025(令和7)年1月17日
対象者	2024(令和6)年12月2日現在で16歳以上の市内在住者
抽出方法	住民基本台帳による無作為抽出
サンプル数	1,500人
依頼・回答方法	無作為抽出した対象者宛てにアンケート調査ご協力のお願い文及びチラシ※を郵送し、回答を依頼。 回答方法は以下のいずれかの方法による。 ①「あいち電子・申請システム」によるWeb回答 ②豊橋市役所または校区市民館への来庁(来館)によるアンケート用紙記入による紙回答
回答数(回答率)	①Web回答:390票(26%) ②紙回答:9票(0.6%) 全体:399票(26.6%)

調査結果の表示について

- ・%表示は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100%を超えます。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の回答者数の合計と単純集計の回答者数が合致しないことがあります。

2 調査項目

■ 回答者の属性（年代、居住する小学校区）

■ 公共施設の利用頻度

■ チラシ※に記載した公共施設の現状に関する認知度 ※チラシは問4(115ページ)に掲載

■ 建物系の公共施設について

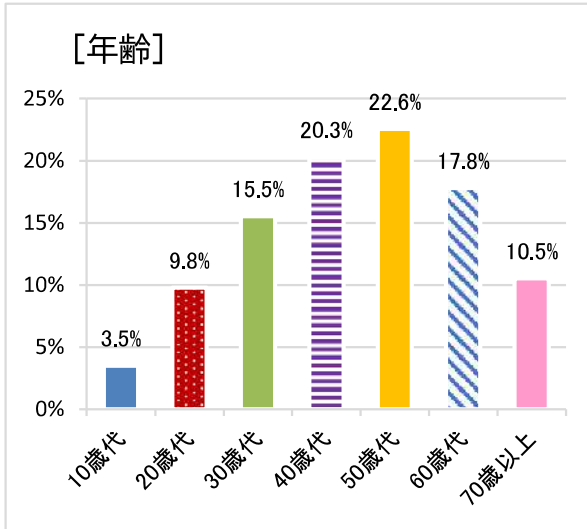
- ・将来の負担を軽減するための方策について
- ・やむを得ず施設を廃止する際の検討対象施設について
- ・複合化等により現在より施設への距離が遠くなった場合について

■ インフラ系の公共施設について

- ・施設の「量」や「質」の印象について
- ・将来の負担を軽減するための方策について

属性

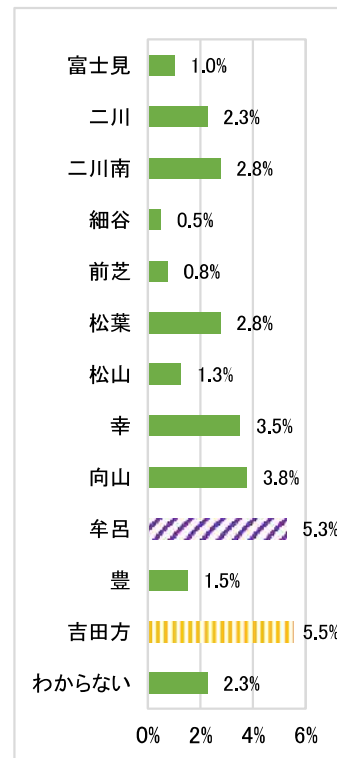
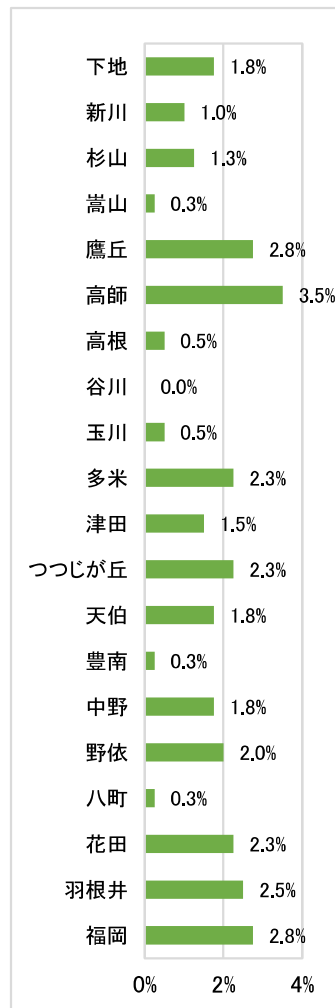
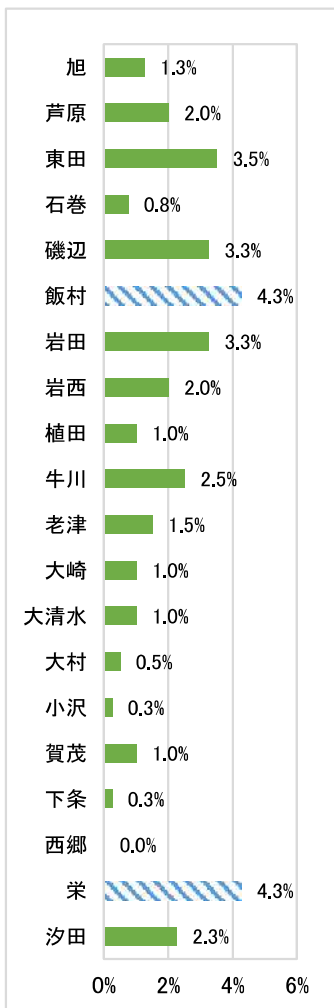
問1 あなたの年齢は？(1つに○)



	回答者数	比率 (%)
10歳代	14	3.5
20歳代	39	9.8
30歳代	62	15.5
40歳代	81	20.3
50歳代	90	22.6
60歳代	71	17.8
70歳以上	42	10.5
合計	399	100.0

年齢は、「50歳代」が最も多く、次いで「40歳代」、「60歳代」となり、「10歳代」は、14人(3.5%)の方が回答しました。

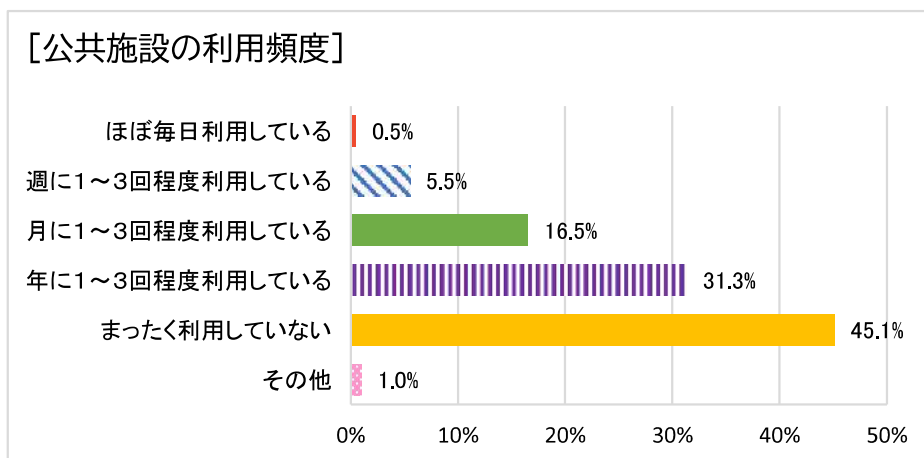
問2 あなたのお住いの小学校区は？(1つに○)※50音順で記載



「吉田方」の割合が5.5%と最も高く、「西郷」、「谷川」の回答はありませんでした。

公共施設の利用頻度

問3 市民館、体育館、福祉センターなどの公共施設をどの程度利用していますか。
(1つに○)

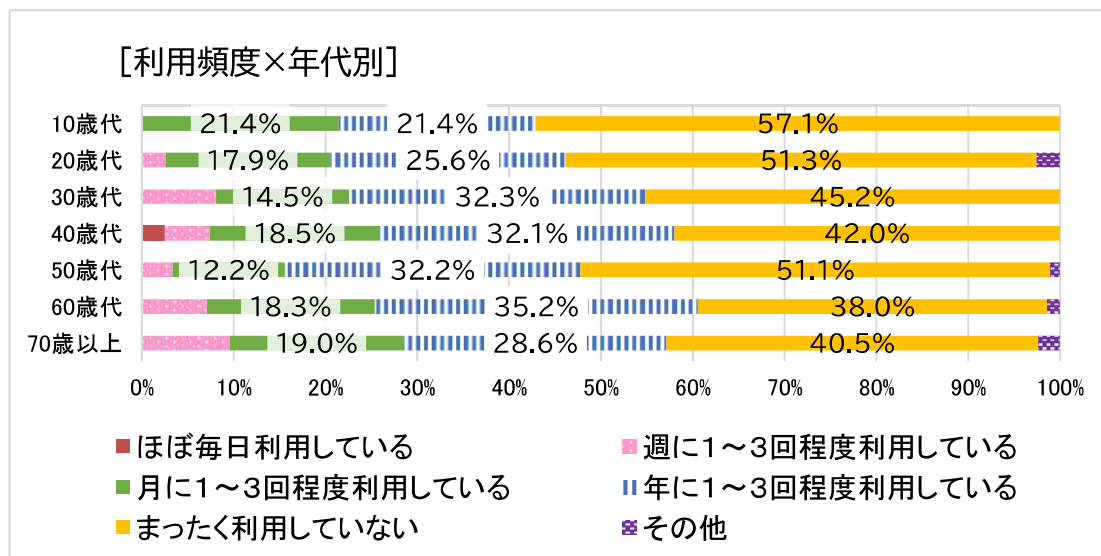


	回答者数	比率 (%)
ほぼ毎日利用している	2	0.5
週に1~3回程度利用している	22	5.5
月に1~3回程度利用している	66	16.5
年に1~3回程度利用している	125	31.3
まったく利用していない	180	45.1
その他	4	1.0
合計	399	100.0

利用頻度は、「まったく利用していない」が最も多く、半数近くを占めています。次いで「年に1~3回程度利用している」となりました。

これらの回答数を合わせると、約76%の方が年3回程度以下の利用にとどまっています。

公共施設の利用頻度（年代別分析）

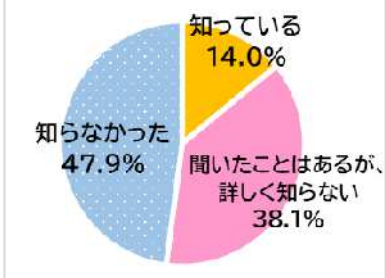


すべての年代において、公共施設を「まったく利用していない」が最も多く、次いで「年に1～3回程度利用している」となりました。

チラシに記載した公共施設の現状に関する認知度

問4 同封のチラシ※に記載している、本市の公共施設の現状について知っていますか。
(1つに○)

[公共施設の現状に関する認知度]



	回答者数	比率(%)
知っている	56	14.0
聞いたことはあるが、詳しく知らない	152	38.1
知らなかった	191	47.9
合計	399	100.0

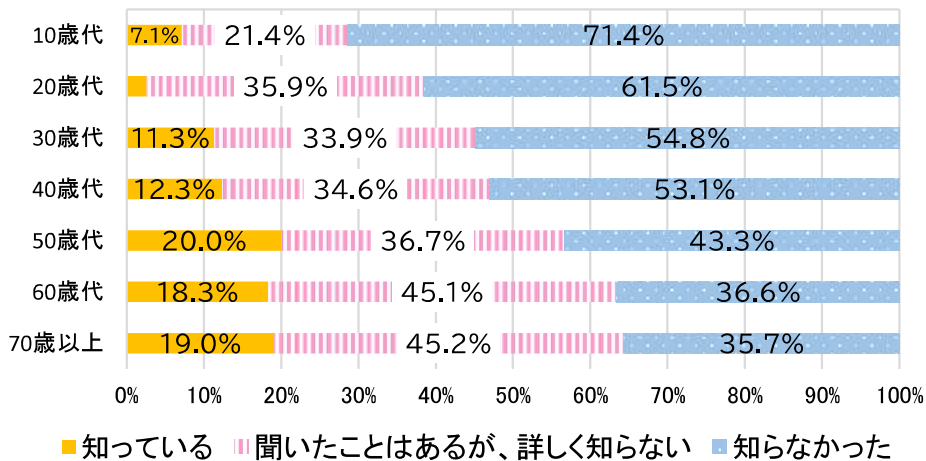
※チラシ



現状について「知らなかった」が191人(47.9%)と最も多く、「知っている」と回答した方は、56人(14.0%)でした。
「知っている」と「聞いたことはあるが、詳しく知らない」と合わせると52.1%となり、公共施設の現状について認知している割合は約半数に上りますが、その多くは詳しく知らないと回答しています。

公共施設の現状に関する認知度（年代別分析）

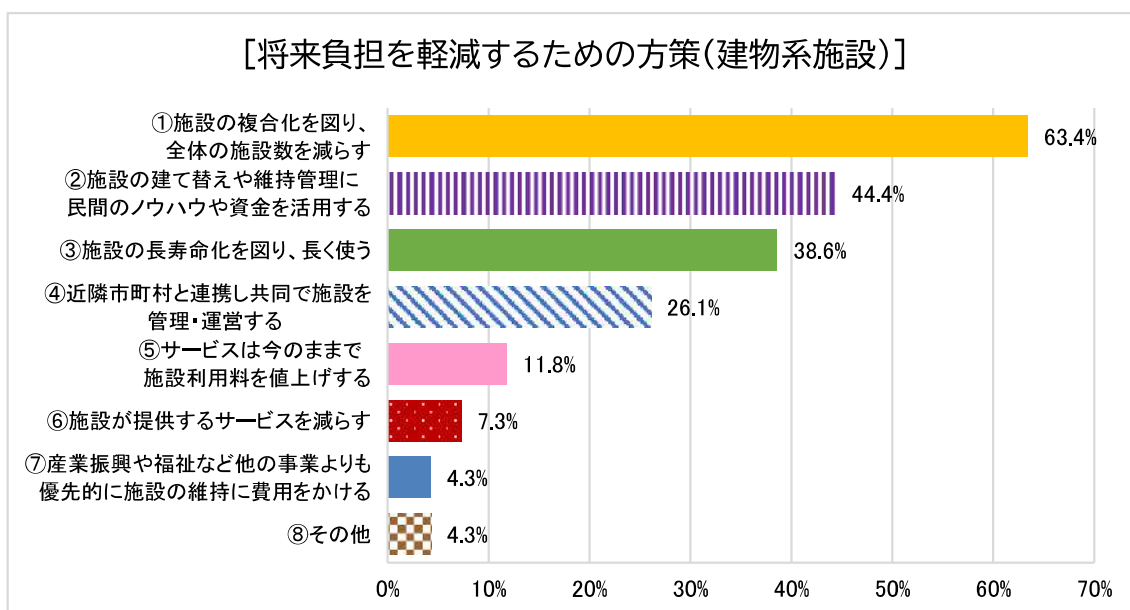
[認知度×年代別]



年代が高くなるにつれて「知っている」の割合が高くなっています。一方、10歳代から40歳代では「知らない」の割合が5割を超えており、年代によって認知度に差が見られます。

建物系の公共施設について：将来の負担を軽減するための方策

問5 建物系の公共施設について、将来の負担を軽減するためにはどのような方法が望ましいと思いますか。(2つに〇)

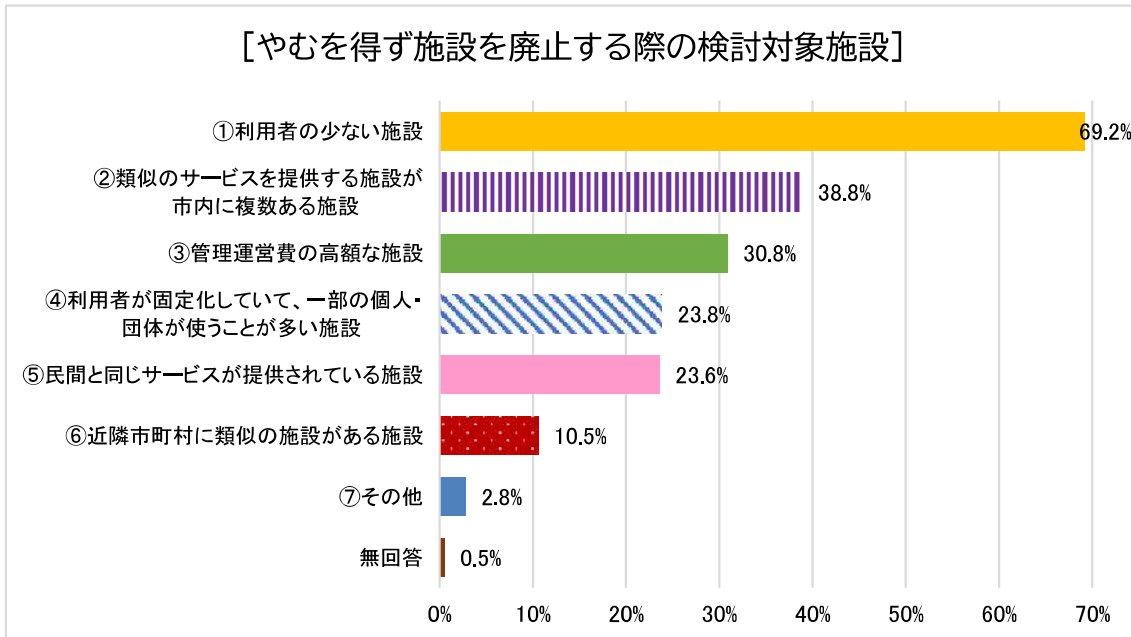


	回答者数	比率 (%)
①施設の複合化を図り、全体の施設数を減らす	253	63.4
②施設の建て替えや維持管理に民間のノウハウや資金を活用する	177	44.4
③施設の長寿命化を図り、長く使う	154	38.6
④近隣市町村と連携し共同で施設を管理・運営する	104	26.1
⑤サービスは今のままで施設利用料を値上げする	47	11.8
⑥施設が提供するサービスを減らす	29	7.3
⑦産業振興や福祉など他の事業よりも優先的に施設の維持に費用をかける	17	4.3
⑧その他	17	4.3
合計	798	—

「①施設の複合化を図り、全体の施設数を減らす」が6割を占めています。次点の「②施設の建て替えや維持管理に民間のノウハウや資金を活用する」、「③施設の長寿命化を図り、長く使う」、「④近隣市町村と連携し共同で施設を管理・運営する」を合わせると435人(109.1%)となり、施設数を減らす以外には、維持管理の方法を工夫することで費用を抑制する方策が望まれています。

建物系の公共施設について：やむを得ず施設を廃止する際の検討対象施設

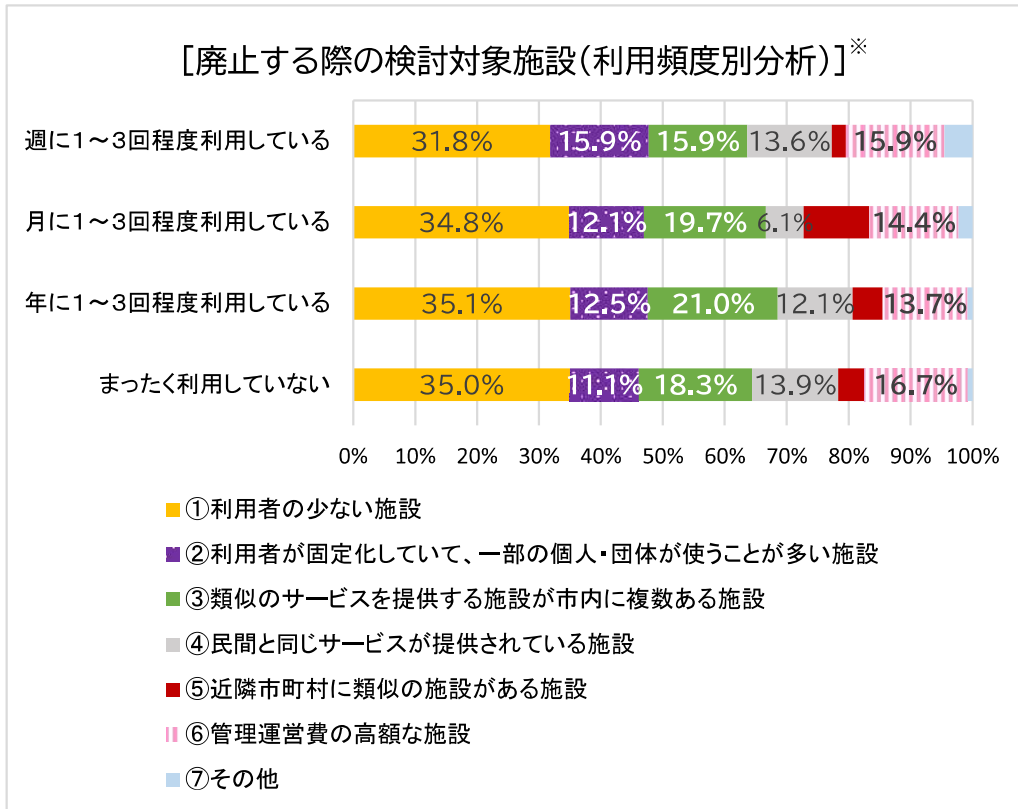
問6 今後、やむを得ず施設の廃止などを検討する際、どのような公共施設を検討対象とすべきだと思いますか。(2つに〇)



	回答者数	比率(%)
①利用者の少ない施設	276	69.2
②類似のサービスを提供する施設が市内に複数ある施設	155	38.8
③管理運営費の高額な施設	123	30.8
④利用者が固定化していて、一部の個人・団体が使うことが多い施設	95	23.8
⑤民間と同じサービスが提供されている施設	94	23.6
⑥近隣市町村に類似の施設がある施設	42	10.5
⑦その他	11	2.8
無回答	2	0.5
合計	798	—

「①利用者の少ない施設」が7割近くを占めています。
 そのほか、類似のサービスを提供する市内外の施設に代替可能な施設や、利用者が限定されている施設についても検討対象とすべきだと考えている方が多くいます。

やむを得ず施設を廃止する際の検討対象施設（利用頻度別分析）



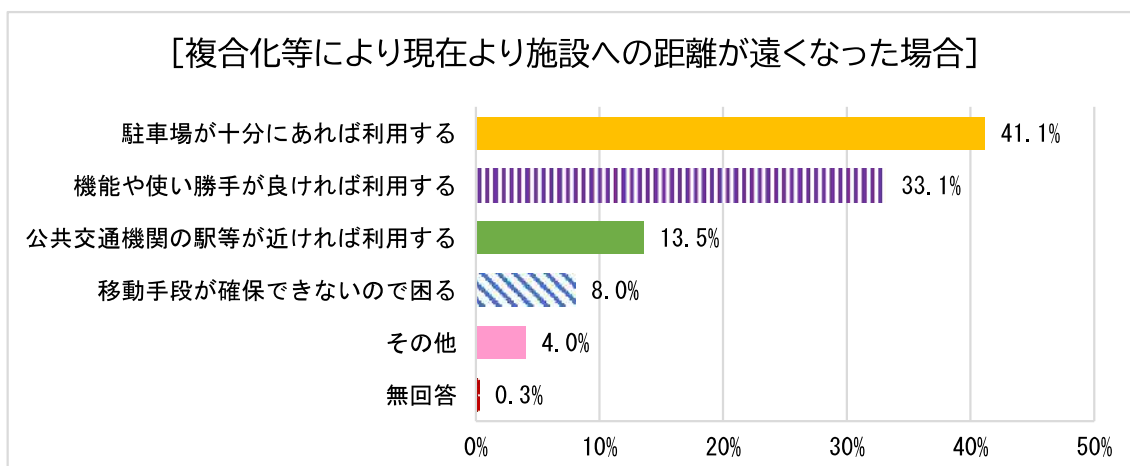
選択肢		①利用者の少ない施設	②利用者が固定化して、一部の個人・団体が使うことが多い施設	③類似のサービスを提供する施設が市内に複数ある施設	④民間と同じサービスが提供されている施設	⑤近隣市町村に類似の施設がある施設	⑥管理運営費の高額な施設	⑦その他
回答者数	合計	276	95	155	94	42	123	11
ほぼ毎日利用している	4	2	0	1	0	0	1	0
週に1~3回程度利用している	44	14	7	7	6	1	7	2
月に1~3回程度利用している	132	46	16	26	8	14	19	3
年に1~3回程度利用している	248	87	31	52	30	12	34	2
まったく利用していない	360	126	40	66	50	15	60	3
その他	8	1	1	3	0	0	2	1

※「ほぼ毎日利用している」と「その他」は回答者数が少ないためグラフからは除外しています。

施設の利用頻度について、一定の回答数がある「週に1~3回程度利用している」、「月に1~3回程度利用している」、「年に1~3回程度利用している」、「まったく利用していない」の項目では、やむを得ず施設を廃止する際の検討対象施設について近似する回答結果となり、利用頻度による大きな意見の差は見受けられませんでした。

建物系の公共施設について：複合化などにより現在より施設への距離が遠くなった場合

問7 複合化などにより、現在より施設が遠くなったらどう思いますか。(1つに○)



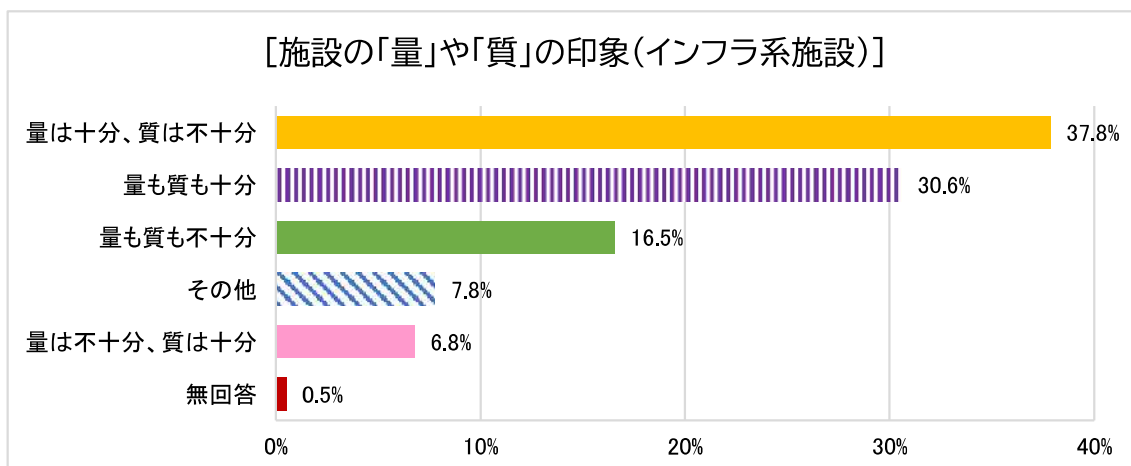
	回答者数	比率 (%)
駐車場が十分にあれば利用する	164	41.1
機能や使い勝手が良ければ利用する	132	33.1
公共交通機関の駅等が近ければ利用する	54	13.5
移動手段が確保できないので困る	32	8.0
その他	16	4.0
無回答	1	0.3
合計	399	100.0

「駐車場が十分にあれば利用する」が164人(41.1%)と最も多く、次いで、「機能や使い勝手が良ければ利用する」が132人(33.1%)となりました。移動手段に自家用車を想定している方や、施設の機能改善を期待している方が多いことが推察されます。

インフラ系の公共施設について：施設の「量」や「質」の印象

問8 インフラ系の公共施設の「量」や「質」について、どのような印象を持っていますか。

(1つに○)

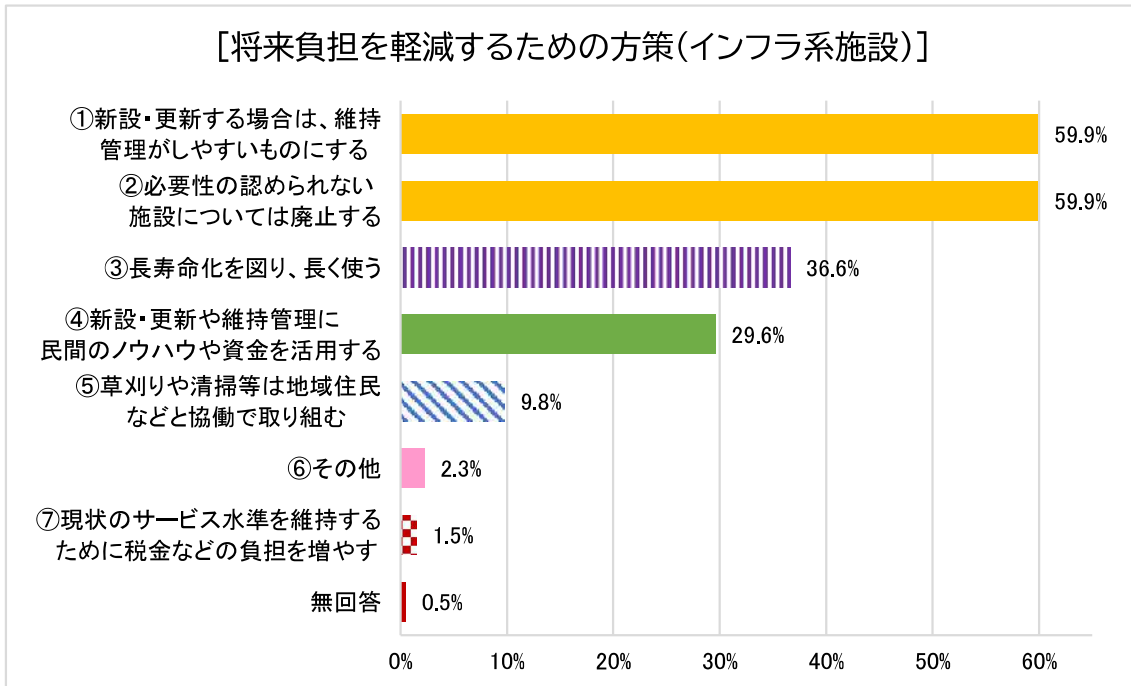


	回答者数	比率 (%)
量は十分、質は不十分	151	37.8
量も質も十分	122	30.6
量も質も不十分	66	16.5
その他	31	7.8
量は不十分、質は十分	27	6.8
無回答	2	0.5
合計	399	100.0

「量は十分、質は不十分」が151人(37.8%)と最も多く、次いで、「量も質も十分」が122人(30.6%)となりました。
 「その他」では、道路や公園の整備、管理状況などについての意見がありました。

インフラ系の公共施設について：将来の負担を軽減するための方策

問9 インフラ系の公共施設について、将来の負担を軽減するためにはどのような方法が望ましいと思いますか。(2つに○)



	回答者数	比率 (%)
①新設・更新する場合は、維持管理がしやすいものにする	239	59.9
②必要性の認められない施設については廃止する	239	59.9
③長寿命化を図り、長く使う	146	36.6
④新設・更新や維持管理に民間のノウハウや資金を活用する	118	29.6
⑤草刈りや清掃等は地域住民などと協働で取り組む	39	9.8
⑥その他	9	2.3
⑦現状のサービス水準を維持するために税金などの負担を増やす	6	1.5
無回答	2	0.5
合計	798	—

「①新設・更新する場合は、維持管理がしやすいものにする」、「②必要性の認められない施設については廃止する」が同数で最も多くなりました。
問5の建物系施設の負担軽減策での回答と類似するように、施設を廃止する以外の方策として、維持管理の方法を工夫する方策が望まれています。